



炬火を掲げていざ謳う

No.7

我らの泉鳥取

2022年6月27日（月）

編集・発行 泉鳥取高校 教頭（妻木）

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/izumitottori/custom91.html>

臨海訓練2

引率と補助生徒



東浜海水浴場沖合の飛び込み台

臨海訓練には多くの教職員が関わりました。平成6（1994）年度臨海訓練の教職員用しおりが残っていたので、これを例にとります。なお、それまで前後団の2団編成で行っていた臨海訓練が平成5（1993）年から10クラス一挙に実施することになりました。

実施日時は7月26日から28日の2泊3日、参加生徒は19期1年生360人（10クラス）の在籍生徒のうち354名が参加。引率は学年団の担任10名、副担任10名、さらに団長の有吉校長、養護教諭、その他の教員が23名で生徒たちの水泳指導を行い、総計43名の教員が参加しています。当時の所属教職員（行政を除く）66名のうち65%の教員が参加しているのです。

バディシステムを取り入れてパートナーを意識させ、点呼の時、必ずパートナーがいるかどうかを確認するなど、慎重を期していても、なかなか目が届かない部分もあり、2・3年生で運動部員や、泳力の優れた生徒を「補助生徒」として協力してもらいました。平成6（1994）年の補助生徒は男子18名、女子14名、うちバスケットボール、ラグビー、バレーボールと情報処理部の各クラブ員が中心でした。

生徒は泳力によってSA（スペシャルA）、A、B、C、Dに分け、それぞれの班に教員一人、補助生徒一人がつけました。教職員と補助生徒は統一されたTシャツを着用、すぐにスタッフと分かるようにしていました。このTシャツは教職員と同じデザインで色違い、教職員は白色、補助生徒は黄色のTシャツを着て、1年生の支援

を行いました。

水泳指導は危険が伴うので、事前の準備で竹ブイ（竹を束ねて掴まれるようにしたもの）や筏を設置、さらに動力船を4隻配置。遠泳ではすべての船を周辺に付け、3kmの遠泳をSA、A班で行いました。そのすべてに補助生徒が頑張ってくれました。今思えば、補助生徒の皆さんがいなければ、臨海訓練という行事は成功しなかったでしょう。補助生徒は、教職員とともに、1年生の行事の運営スタッフとして縦横無尽に活躍してくれました。この行事を経て、2年生、3年生の自覚も高まり、学校の中核となってくれました。



1994年臨海訓練の準備体操 黄色いTシャツが補助生徒である。

